

「国民皆歯科健診」とは？

今年5月末、政府が公表した「骨太の方針」の原案に、「国民皆歯科健診の具体的な検討」という一文が盛り込まれたことが、6月頭に向け大きな話題を呼びました。その理由には、一部メディアが、この「国民皆歯科健診」を「**全国民に毎年の歯科健診を義務づける**」ものとして報道したことがあります。唐突に感じた人も多かったようで、ネットでは「歯科健診自体は病気の予防になる」「義務化はやりすぎ」と賛否両論が巻き起こりました。

この件について自民党は「義務化できるものではありません」「強制ではなく全国民が年一回、歯科健診を受けられたり、受けやすくしたりするのが国民皆歯科健診。その費用は基本的に国が負担していくようにする、というのが狙い」と回答しています。

歯科健診ってそんなに大事なの？
どんなメリットがあるの？



虫歯や歯周病などによって多くの歯を失うと、高齢になったときに咀嚼（噛む）機能や嚥下（飲み込む）機能が低下し、生活に支障をきたして十分な栄養が摂れなくなり、筋力低下やロコモティブシンドローム（運動器症候群）につながり、要介護となるリスクを高めることが知られています。

また、歯周病は、心疾患や慢性腎臓病、呼吸器疾患、骨粗鬆症、関節リウマチ、がん、早産・低体重児出産など、様々な全身疾患と関連していることが報告されています。

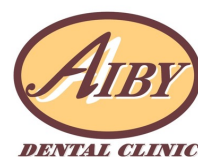
歯科健診には、虫歯や歯周病など口腔の異常を早期に発見することができるという意義があり、介護や全身疾患のリスク低減にもつながることが見込まれます。

大人では健康増進法に基づき、市町村が歯周病健診を**40歳から70歳まで10年ごとに実施**しています。

虫歯や歯周病はコロナと同じ「**感染症**」なので家族間でうつる病気です。**ひどくなる前にご家族全員で歯科健診に行きましょう！**

博愛会通信

令和4年
8月号



医療法人社団 博愛会
平岸駅前こまち歯科